

かわ

Vol.210
2011.7.1



Contents

- 就任挨拶 P1
- 那珂川の水害の記録を保存する会 P2
- わがまちのかわ P3~P4
◎第11回 上毛町 友枝川・東友枝川
- 第1回災害復旧実務講習会の報告 P5~P6
- 河川愛護月間のお知らせ P7~P8
- 福岡の身近な川とさかなを知ろう P9~P10
子供はかわいい
- 水辺の鳥図鑑／協会からのお知らせ P11



就任のご挨拶

福岡県河川協会会長

十中 大雅

Daiga Junaka

去る、5月17日、福岡県議会県土整備委員会委員長に選任され、併せて福岡県河川協会会長に就任いたしました。

まず、今回の東日本大震災で亡くなられた方々に対しまして御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

本協会は、昭和26年に災害復旧事業の促進を目的とし「福岡県防災協会」として設立され、2年後の昭和28年に「福岡県防災治水協会」と名称変更を行った後、昭和47年に「福岡県河川協会」となり、今年で設立60周年を迎えることができました。これもひとえに、会員各位並びに関係者の皆様のご支援、ご協力の賜であると心から感謝申し上げます。

この間、昭和28年の西日本大水害をはじめ、「平成21年7月中国・九州北部豪雨」など、毎年のように梅雨前線・台風による災害が発生し、尊い人命と多くの財産が失われてまいりました。

また、最近では地球温暖化の影響と思われる気候変動が顕著に見られるようになり、短時間に局地的な豪雨をもたらす、いわゆる「ゲリラ豪雨」が頻発する傾向にあり、災害のリスクが高まっていると言われています。

このような水害を防止するために、本県においては、災害復旧事業をはじめ各種の河川整備事業の推進等ハード面はもちろん、災害発生時の被害軽減のための市町村による住民の避難誘導體制の強化、洪水ハザードマップの整備などソフト面においても鋭意対策が進められているところでございます。

一方で、毎年7月の河川愛護月間を中心に、良質な河川環境を求める市民の愛護活動も活発になり、河川浄化も随分進んでまいりました。各地の小学校においても、地域の河川に関する環境学習も行われています。これにつきましては、「かわ」に随時掲載させていただく予定であります。

もう一方では、本県は深刻な水不足を度々経験しており、500万県民の日常生活を支える水を確保するため、水資源開発も重要な課題であります。

今後、治水・利水・親水の調和を図りながら河川事業が進められていく上で、河川協会としても、より効果的な活動を行ってまいりたいと考えております。

皆様のより一層のご指導とご支援をお願いいたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

『水害記録を残す会』が 河川功労者表彰を受賞

公益社団法人日本河川協会が、河川の事業、研究、愛護、水防などに功績のあった個人または団体を表彰する「河川功労者表彰」において、福岡県内の団体『水害記録を残す会』（那珂川町）が、歴史、文化活動又は芸術活動により河川文化の発展に寄与し功績があったとして表彰されました。

活動の実績

那珂川町では、「平成21年7月中国・九州北部豪雨」により役場が浸水するなど、町内各地で甚大な被害が発生しました。この事実を風化させないよう、安全・安心のまちづくりの一環として、現代表者が中心となり「水害記録を残す会」を発足しました。この趣旨に賛同した町民が集まり、洪水被害記録や被災写真等の提供を広く募集し、集まった約4,000枚の中から厳選した約420枚を、平成22年7月17日から7月31日までの間、「ミリカローデン那珂川」で展示しました。

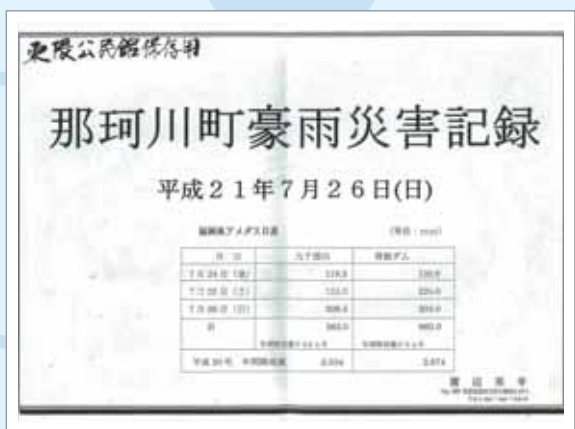
その後、集めた資料をもとに、町民の防災意識の高揚を図り安全・安心のまちづくりに貢献するため、平成23年3月にこれら資料や写真等を整理し、後世に残せる資料集として取りまとめました。

また、この災害を機とし、那珂川町の災害特性（川沿い等の浸水被害・山間部の崩壊被害）を明らかにしながら、二度とこのような大規模災害が発生しないよう国・県に写真等資料の提供を行いながら、被害を最小限に押さえるべき対策を講じるよう、那珂川町や区長会とともに要望活動を行いました。

展示の様子



資料集



郷土ふるさと 福岡の河川を知る

わがまちの かわ

第11回

こうげまち

上毛町

とも えだ がわ ひがし とも えだ がわ

友枝川・東友枝川



福岡県

KOGE TOWN



上 毛町は福岡県の最東端に位置する町で、平成17年10月11日に新吉富村と大平村が合併して誕生しました。

西は豊前市、北は吉富町、東は山国川を境に大分県中津市と隣接しています。

東西を山国川と佐井川に挟まれ、南部の山間部を除いて起伏は少なく、町北部に平野が広がる概ねなだらかな田園地帯です。

近接する中津市を中心とする九州周防灘地域定住自

立圏の構成自治体であり、経済、生活、文化、教育、観光などの全ての面で、県境を越えた密接な関係が構築されています。東九州の自動車交通の軸を担う国道10号が通過し、平成26年度末を目標に東九州自動車道の建設が進められています。東九州自動車道の開通で福岡や北九州との距離感も縮まり、交通・立地条件など利便性が高まるとともに四季を通して豊かな自然や歴史文化、観光、各種イベントが満喫できる住みやすい町です。

上 毛町に流れる友枝川12.6kmと東友枝川7.9kmの上流には、毎年5月下旬から6月中旬にかけてたくさんの蛍が乱舞します。そこで、蛍を活用した交流イベントの紹介をします。

東友枝川の上流に位置する東上1区では、毎年5月末から6月初めにかけて、「ホタルの鑑賞会」を開催しています。鑑賞会は全国ホタル研究会員の方を講師に招き、ホタルの生態などを



を学んだあと、ホタルの乱舞を見に行きます。澄み渡った夜空の星とホタルの乱舞、カジカガエルのきれいな鳴き声と、自然を満喫できるこのイ

ベントは、都会からたくさんの方々が参加しています。この地域も一時期ホタルが減ったこともありましたが、平成3年頃から地元住民により河川の清掃やホタルのえさになるカワナナの放流を行い、今のようにホタルが乱舞するようになりました。



上毛町には、河川の清掃活動や岸辺の草刈を行い、美しい川を後世へ伝えていくことを目標に活動をしているグループがあります。

土佐井ドンクローズ

友枝川農村公園周辺の水辺環境を、地域に親しまれる空間にしていくために、桜105本、アジサイ70本を植栽し維持管理を行っています。



東上1区自治会地域づくり

永年地域で続けてきた岩屋の滝さくら公園や三田ダム公園の清掃活動に加え、岩屋の滝やおとろしの滝の保全活動を行っています。



西友枝ニコニコ会

西友枝地区の美しい景観づくりのため、友枝川周辺(二ノ瀬橋付近)の草刈作業とコスモスなどの花植え活動を行っています。



したんかわよろうかい

垂水地区の友枝川兩岸の草刈作業を行い「水(川)、緑(田)石垣」のきれいな景観を後世に残すことを目標に活動を行っています。



上毛町の滝

おとろしの滝

県道111号線から見る事が出来ます。地元の人たちが滝付近の下刈り等を行っています。



中造の滝

一般の人では、たどり着くまでが大変な「道なき道」を通り、幻想的な滝の風景に出会えます。



岩屋の滝

昔から、お参りしたら雨が降るといふ言い伝えがあります。一般の人でも行けます。



平成23年度 第1回災害復旧実務講習会の報告

平成23年5月9日(月) 時間: 10:30~16:50 於・(財)福岡県建設技術情報センター

平成23年度第1回福岡県災害復旧実務講習会(主催:福岡県河川協会)が開催され、県内各市町村・県土整備事務所の担当者約140名に参加していただきました。当講習会は年2回、災害復旧担当者を対象に開催しており、昨年度の災害復旧事業の総括や災害復旧事業の基本原則、災害復旧事業の実務、設計・積算の考え方や留意点など、事務及び技術の両面から災害復旧事業について習得できるプログラムとなっています。

午前中の災害復旧事業の総括では、福岡県における平成22年度の災害査定件数が315件であったこと、平成22年度も災害発生後2ヶ月以内に災害査定が行われ、迅速な対応ができたことが報告されました。また、平成22年災害のポイントとして、河川水位の痕跡や法面からの湧水の状況など、被災原因が特定できる現場写真を早めたくさん撮っておくこと、平成20年度以降「被災前状況を説明する資料」に基づく説明が必要となっており、平常時からの維持管理に関する資料整理や被災直後の状況が分かる記録等について創意工夫が必要であることなどの説明がありました。

そのほか、災害発生時の報告方法や実務の流れ、災害復旧管理システムを使った目論見書作成方法の説明があり、また県土木技術職OBがボランティアで組織する「福岡県防災エキスパート会」からは、河川現況調査や大規模災害時の市町村への災害申請アドバイスなどの活動紹介がありました。

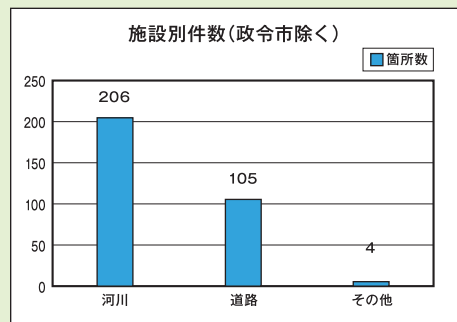
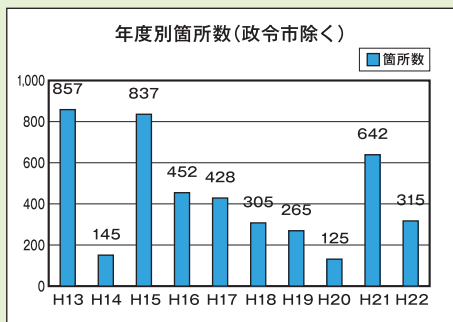
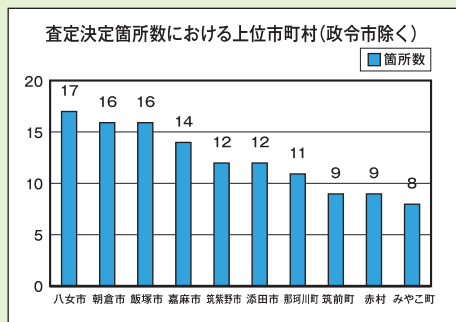
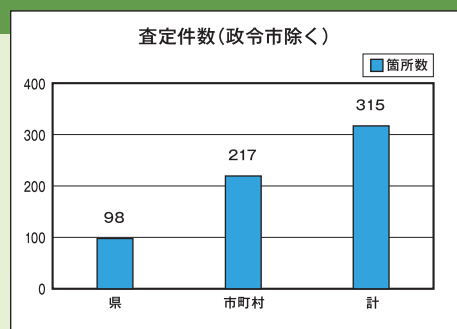
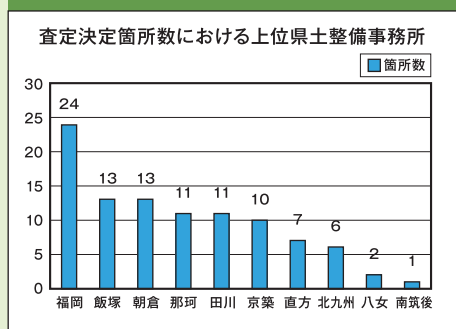
午後からは、災害復旧事業の目的や採択要件、災害発生から成功認定までの流れといった基本的な事項や応急工事における留意点、平成22年度全国担当者会議の報告や国及び県から出された災害復旧に関する技術的な通達事項の解説、河川と道路の災害復旧に関する留意点など実践に即した内容の説明がありました。

また、最新の災害査定の実務に基づき、平成23年度に「災害査定のとびき」を改訂しており、その改訂点についての解説も行っております。

「東日本大震災」による東北・関東地方の甚大な被害を目の当たりにする中で、改めて災害復旧の重要性を認識ながらの講習会であったように思います。災害復旧事業の基本法令となる「公共土木施設災害復旧事業費国庫負担法」の第一条には、「この法律は、公共土木施設の災害復旧事業費について、地方公共団体の財政力に適應するように国の負担を定めて、災害の速やかな復旧を図り、もって公共の福祉を確保することを目的とする。」と記されております。災害発生から成功認定までには、災害復旧に係る多くのルールや留意事項がありますが、この講習会を参考にいただき、災害の速やかな復旧を図る一助になればと考えております。

次回の講習会においても、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

H22災害査定の結果





災害復旧実務講習会を受講して

福岡県土整備事務所 河川砂防課 長谷川 仁

昨年度、河川砂防課に異動になり、何もわからないまま災害復旧工事を引き継ぎ、苦労してようやく工事が完了した矢先、またもや平成22年7月の梅雨前線豪雨により被災を受けました。立て続けの豪雨により、管内では健全度を損なっている河川も多くあり、これから梅雨、台風時期を迎えるにあたり身の引き締まる思いです。

さて、「災害復旧実務講習会」には昨年も参加させていただきましたが、覚えることに精一杯であり頭に入っていなかったような気がします。そして今回、実際に査定から工事着工、完成まで一連の流れを経験した後、「災害復旧実務講習会」を受講してみようやく頭に入ってきたように思います。

例えば、護岸の根入れ深さを決める際、災害査定の手引きによると「川幅5m以上では最深河床から1m」となっていますが、それは参考であって実際には被災箇所の上流の護岸根入れ深さが浅ければ掘削時に健全な護岸まで崩壊し

てしまう恐れがあるため、護岸前面に護床工を設置し、根入れを浅くする等周辺の状態をよく把握して決める必要があります。

災害時にはただでさえ余裕がない中、被災箇所がたくさんあると現場を把握することすら困難になりますので、もし災害が起こったらどこに着目してどう動くのかを日頃から考えておく癖をつけるべきだと思います。

近年ではゲリラ豪雨と呼ばれるような局地的かつ短時間に大雨が降る傾向があり、平成21年、平成22年と立て続けに豪雨災害に見舞われ、昨年3月には東日本大震災では多くの命と財産が失われました。

住民の防災に対する意識の高まる一方、どの自治体でも財政難で予算の削減を求められています。しかしながら、住民の生活を支える公共事業はなくてはならないものですので、この災害復旧制度をうまく活用し、民政の早期安定を図る必要があるのではないのでしょうか。



「災害復旧」について、いま思うこと

那珂県土整備事務所 河川砂防課 森山 宏隆

災害復旧実務に携わるものとして、いまほど「災害復旧事業」について考えさせられることはないでしょう。

東北地方を中心としたいわゆる「東日本大震災」では、マグニチュード9.0最大震度7の本震や度重なる余震、その後発生した津波などで甚大な被害がもたらされています。テレビ報道で液状化現象などにより変状した道路や港湾などの公共土木施設が未だ手つかずに残っている映像を見るたび、被害規模の大きさに半ば呆然としてしまいます。

福岡県においても、平成17年に最大震度6弱を記録した「西方沖地震」が発生していますし、平成15年には博多駅を冠水させ、平成21年には九州自動車道太宰府IC付近で大規模な地すべりを発生させた局地的集中豪雨など異常な天然現象が毎年のように発生し、多くの被害がもたらされました。

そのようななかでも、公共土木施設を速やかに復旧す

ることで人々が平穏な生活にいち早く戻れる環境を整えること、負担法の目的でもある「公共の福祉を確保する」ことが実務担当者としての役割だと改めて感じています。

講習会では査定までのプロセスや基本的な留意点などが説明されました。基本があるなかで、近年でも被災まで適切な維持管理が行われていたかの定期点検を行い写真等で記録資料の整理を徹底しているかについて査定時に確認が行われることや護岸直高5~7mにおけるブロック積擁壁の運用、環境負荷低減に努めることを目的としたコンクリート塊の現場内再生における取扱いなど、様々な運用の改定が行われています。

たくさんの知識を踏まえて遂行することに戸惑いつつも、災害発生時には速やかに「公共の福祉を確保する」ため、実務に取り組んでいこうと講習会に参加して感じているところです。

河川愛護月間のお知らせ

福岡県では、7月を河川愛護月間と定め、河川愛護事業を実施しています。

広報活動

①街頭広報キャンペーン

県内の、福岡・北九州・久留米・飯塚の4つのブロックにおいて、街頭でチラシ等を配ったり、地域のイベントに参加して河川愛護意識の啓発活動を行っています。

②河川愛護ポスターの掲示

河川愛護ポスターを作成し、県内のJR主要駅に掲示しています。

③懸垂幕・看板の掲示

県庁や県土整備事務所で懸垂幕や看板を掲示し、住民の方に河川愛護を呼びかけています。

表彰

①河川功労者の表彰

河川の機能保全、河川愛護等に、特に力を尽くしその功績顕著な個人並びに団体を表彰しています。

②河川愛護絵画コンクール

河川愛護意識の高揚を図るため、小学校児童による河川愛護絵画コンクールを実施しています。優秀作品(特選及び一等)は、福岡県河川協会総会で表彰を行っています。また、このコンクールで特選に選出された作品については、翌年度の河川愛護月間PRポスターとして使用します。

街頭キャンペーン



福岡ブロック キャンペーン活動

ポスター



平成22年度 河川愛護月間PRポスター

表彰



河川功労者

22年度特選作品



柳川市立矢ヶ部小学校2年(当時) 江嶋 彩斗くん



絵画コンクール



柳川市立矢ヶ部小学校3年(当時) 鶴田 怜生くん

ふくおかの身近な川と さかなを知ろう

No.15

子供はかわいい



私 の子供は6歳と1歳の男の子。長男坊主は残念ながら野生生物には大した興味もなく、鉄オタまっしぐらです。現在、春休み真最中で、「電車に乗せろ！電車に乗せろ！」とあまりにうるさいので、先週末、門司港の鉄道記念館に行ってきました。ちなみに、行きは811系の快速で、帰りはわざわざ小倉で下車して、小倉一折尾間のわずかな区間、ソニック885系に乗せてあげました。細かい数字は鉄オタの長男坊主には重要なようで、、、。次男坊も当然のようにその影響を受け、「父ちゃん」よりも「ガッタンゴットン」を先にしゃべりだしました。そんな我が息子たち、かわいくて、かわいくて、仕方がありません。

さ て、「身近な川と魚」から話がそれてしまいました。今日魚はオヤニラミです。そして、真っ先に思い出すのが、研究テーマとしてのオヤニラミ。2年前、研究室にやってきた新人の大学院生から「オヤニラミの研究をやりたいのですが、、、」と言われたことがあります。即答で「ダメ！」と言ったため、彼は未だに根に持っています。今年の3月に無事卒業したのですが、追い出しコンパで「オヤニラミを却下された」とまだ言っていました。ちなみにこの魚、私にとっても思い出深い魚でして、約20年前、卒論研究のため研究室に入った時、「オヤニラミの研究をやりたいのですが、、、」と主張し、当時の教授先生から却下された因縁の魚です。20

年前と最近で、同じことが繰り返されたわけですが、なぜ却下なのでしょう？実は、この魚、とても子煩悩で生態学的に面白いため、研究者に人気があります。様々な研究者が少しずつ手を出していて、研究面での競争率が極めて高いのです。後追い研究よりも大した知見が得られていない魚の研究をやる方が、新知見がたくさん出てきて魅力的です。だから却下なのです。

人 気の理由のひとつである子煩悩。それは、どれほど子煩悩なのでしょう？とにかく、一生懸命、親が卵を守ります。オヤニラミの巣に他の魚（ムギツク）が卵を産みつけても、それを自分の子供だと信じて疑わず、一生懸命守り続けます。親がにらみをきかせて卵保護することに、その名は由来しているのです。我々、人間だけじゃなく、魚にとっても子供はかわいいのです。

オ ヤニラミが研究者に人気な理由はほかにもあります。川の魚で種数が多いのはコイの仲間です。どちらかと言えば、原始的な魚に位置づけられます。しかしながら、オヤニラミはスズキの仲間です。スズキの仲間の多くは海産魚で、遊泳機能が発達し、進化的な魚に位置づけられます。川に潜って観察しているとき、オヤニラミをじっと観察していると感動します。多くの川魚とは違い、水中での制止、泳ぎながらのバックができます。ゆっくりではありますが、後ろに進める魚は川の中で見かけることがほとんどありませんので。



ち なみに、このオヤニラミ、観賞魚としての人気も極めて高いです。体の色彩が特徴的ですし、観賞魚店の水槽の中で一際目を引きまします。そして、しばらく眺めていると、他の淡水魚とは異なる泳ぎを見せてくれることでしょう。そして、飼育してみたくなり購入してしまうのだらうと思います。大変残念な点は、飼育できなくなった人が生息域外に放流し、国内外来魚としてこの魚が定着してしまった地域があることです。こうなってしまうと、社会問題化してしまったブラックバスやブルーギルと同じです。親がにらみをきかせて卵を守るような魚ですので、幼少期から縄張り意識が強く、他の種類の魚にも攻撃的ですし、オヤニラミ同士でも戦います。狭い水槽で飼育するのには向かない魚です。安易にオヤニラミを飼育することはやめた方がよいでしょう。とりあえず、かわいいから、格好いいから飼育してみたものの、飼育が難しいので近所の川や水路に放流、そして、国内外来魚として定着、といった流れが目に見えます。淡水魚の魅力はみなさんに感じてほしいと切に願いますし、家の水槽に魚を泳がせるのは魅力を感じるためのひとつの手段だと思います。ただ、その先にある様々な問題に配慮してください。あなたの1尾、2尾の遺棄が、地域固有の生態系を破壊し、生物多様性をかく乱してしまうかもしれません。国内外来魚オヤニラミよりも、子煩悩で愛らしい生態を持つオヤニ

ラミでいて欲しいと思いませんか？

さ て、再び、私と私の家族に話が戻りますが、今、私は大阪出張のため、博多からN700系のぞみに乗車中。春休みがもうすぐ終わってしまう子供たちは母親に昨日「電車に乗せろ！」と主張して、交渉が成立したようで、またまた811系の快速に乗車中。今日は久留米まで出かけるそうです。別に遊園地などの施設があるわけではないのですが、、、きっと子供たちは、帰路には久留米ー博多間の短い区間、開通してまもない九州新幹線さくらに乗ることでしよう。ちなみに、私もすっかり長男坊主に洗脳され、、、今日の会議が早く終了し、帰りの新幹線で新大阪発のさくらかみずほに乗車したい。会議が長引くと博多終点ののぞみとひかりしかありません。何せ、子供はかわいいですので、そんな彼らと楽しい会話をするためにも、魚オタから鉄オタへ転身？オヤニラミとはちょっとスタイルは違いますが、ある意味、子煩悩な父親であり続けたいものです。

おにくら のりお

鬼倉 徳雄

- 九州大学大学院農学研究院・助教
- 日本水環境学会九州支部・評議委員
- 日本魚類学会自然保護委員会・希少魚類部会委員

主な著書／

- 有明海の生きものたち 干潟・河口域の生物多様性(佐藤正典編)
- 干潟の海に生きる魚たち 有明海の豊かさ危機(日本魚類学会自然保護委員会編)

水辺の鳥図鑑

アカ ガシラ サギ
赤頭鷺

コウノトリ目サギ科
(学名:Ardeola bacchus)

- 撮影者:犬鳴川流域文化研究会:中村氏
- 撮影地:犬鳴川流域



嘴の色彩は黄色く、先端が黒い。後肢の色彩はオレンジがかった黄色や黄緑色。全長42~45センチメートル。翼開帳75~90センチメートル。腹部は白い羽毛で被われる。尾羽や翼の色彩は白い。夏季は頭部から頸部が赤褐色、胴体正面は青みがかった灰黒色、胸部が紫褐色の羽毛で覆われ(夏羽)、和名の由来になっている。

表紙の説明

河川愛護絵画コンクール 特選作品

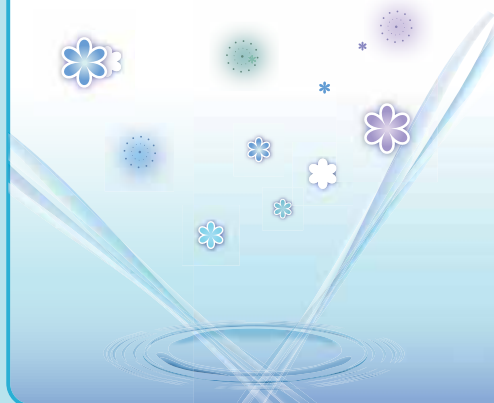
河川愛護月間(7月1日から7月31日)の行事として実施した、平成22年度河川愛護絵画コンクールの特選、苅田町立片島小学校6年(当時)松蔭勇利君の作品です。「ぼくはホタルを見たときの美しさにおどろいた様子を絵であらわしてみました。」



協会からのお知らせ

平成23年度通常総会

- ◎日時:7月29日(金)
- ◎場所:ホテルレガロ福岡
- 主催:福岡県河川協会



編集 後記

今年も新しい編集スタッフが加わりましたので、新スタッフを紹介します。県土整備部河川課 櫻井技術主査、若松主任技師、崎山主任技師の3名です。これまでの遠藤防災事務係長、加藤主事、河川協会猿渡、三好の4名と合わせ、総勢7名となりました。今後ともよろしくお願ひします。(猿渡)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669
企画 セントラル印刷株式会社